

私立聖ウルスラ学院英智高等学校 阿邊 ほのか 3年

母へ感謝を込めて

拝啓

朝夕肌寒さを覚える頃となりました。お母さん、いつも家族のために頑張ってくれてありがとうございます。

高校に入ってから、毎日がお弁当の生活になりました。毎日私とお父さん（たまに妹と弟）と自分の弁当を作るのはとても大変だったと思います。私が一度だけ気まぐれに朝早く弁当を作るといった日がありましたね。ホットケーキを作りましたが、焼くのはもちろん焼き加減が微妙で難しかったです。ホットケーキくらいでそうなのだから、お母さんがお弁当を作ることを知ることができました。

私は、お母さんがいつも作ってくれるということが当たり前だと思っていました。お母さんがいるのが当たり前で、掃除も洗濯もしてくれて、時々、人生相談にも乗ってくれて、お弁当だけには収まりきれないくらいたくさん家族のために頑張ってくれていますね。

七年前の三月十一日、あの東日本大震災の時に、お母さんが三日も帰って来なかったことがありましたね。私たち家族はとても不安で仕方なかったです。水道が止まっていて水汲みをしていたら、お母さんが向こう側から歩いて来ました。涙が止まりませんでした。

お母さんはあの時、津波に遭って三日間保育所の子供達と保育士のお母さんは救助を待っていたそうです。お母さんがいないという状況になったことが今まで一度もなかったのに、家事や地震で壊れたものの片付けは大変だったけれど、それ以上に私たち家族はお母さんがいないのがとても悲しかったです。お母さんがいるのが当たり前の生活の大切さがよく分かりました。

私たち家族はお母さんが大好きです。感謝したいことはたくさんあるけれど、一番の「ありがとう」は、いつも家族一緒にいてくれることです。

私ももう少し自立して家事ももっと出来るように頑張っていきたいです。その時は教えてください。これからもよろしくお願いします。

敬具

十一月一日

阿邊 ほのか

お母さんへ